

漢詩四編

静夜思 / 江南春 / 月夜 / 香炉峰下、…

P.162 ~ P.170

漢詩に描かれた情景や心情を捉える

検印

全体の構成を理解しよう

思考力・判断力・表現力

語句を確認しよう

知識・技能

次の空欄に本文中の言葉を入れ、全体の構成を理解しよう。

静夜思 せいやし	(162)	形式… <sup>①</sup> 静かな秋の夜、寝台の辺りに差し込む光をたどって山の上の月を見ると、なつかしい故郷が思い出される。
江南春 かこうなん	(163)	形式… <sup>②</sup> 江南の春の景色がとても鮮やかである。この地はかつて南朝が栄えた時代の都であった。
月夜 げつや	(164)	形式… <sup>③</sup> 今夜の月を、長安で監禁されている私と同じように、疎開先の妻も一人で見ていているだろう。遠く離れた妻子と再会できるのはいつのことであろうか。
香炉峰下、… かうろほう	(166) (167)	形式… <sup>④</sup> 朝は日が高くなるまで暖かくしてゆっくり休み、寢床で遺愛寺の鐘を聞き、簾をはね上げて香炉峰の雪を眺める。こは心身ともに安らぐ安住の地だ。

1 次の語句の読みを、送り仮名を含めて、現代仮名遣いの平仮名で書きなさい。

- ① 何時 (164・7)
- ② 便 (166・5)

2 次の語句の本文中での意味を選び、記号で答えなさい。

- 疑是 (162・2)
- ア まるで…のようである
- イ おそらくは…であろう
- ウ 疑っているのは…のことだ

3 次の訓読文を書き下し文にしなさい。

司馬仍為送老官 (166・6)

漢詩の理解を深めよう

思考力・判断力・表現力

1 あるクラスで、四編の詩の中から印象に残った一行を選んで発表し合った。二人の生徒の発言を読んで、発表者が選んだ詩の一行として適切なものを教科書から抜き出しなさい。(訓点をつけなくてよい。)

① 選んだ一行

布団に入ったままで鐘の音を聞く様子が、休日に朝寝坊をして、布団の中で家族が話す声を聞いているときの自分の姿と重なって、親しみがありました。



② 選んだ一行

旗を揺らす風、とっただけで、春のおだやかでのかな風景が目には浮かぶようです。自分もその景色の中にあるような気持ちになりました。



2 次のような表現の工夫が見られる詩の一行として適切なものを選び、記号で答えなさい。

① 巧みな比喻で月の光を表現している。

② 反語を用いて悠々自適の心境を述べている。

③ 地名を詠みこんで、遠く離れた家族を思う心境を表現している。

④ 視覚と聴覚に訴える描写で、春の風景を鮮やかに描いている。

- ア 千里 鶯啼緑映紅 (163・1)
- イ 疑是地上霜 (162・2)
- ウ 故郷何独在長安 (167・1)
- エ 今夜鄜州月 (164・1)

3 「静夜思」(162) について、次の問いに答えなさい。

① 第四句に「低頭」とあるが、このとき作者はどのような心情であったか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 故郷を思って、しみりとしている。
- イ 生まれ育った故郷に、感謝している。
- ウ 故郷に帰れる日を思い、心を躍らせている。
- エ 月のあまりの美しさを、おそれ敬っている。

② 「静夜思」は、作者のどのような思いを表現しているか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 真つ暗な夜にわき起こる、孤独な思い。
- イ 山月の清らかさに、心が洗われる思い。
- ウ 寒々とした月光に、身も凍るような思い。
- エ 月によって引き起こされた、強い故郷への思い。

4 「江南春」(163)に表現されていることとして適切なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 江南の人々の春を待つ心。
- イ のどかな江南の春のさまざまな情景。
- ウ 寺院が建ち並び、栄華を誇った時代への懐旧の念。
- エ 春になってもふさがちな作者の思い。

 

5 「月夜」(164)について、次の問いに答えなさい。

① 第三句に「遥憐」とあるが、作者は、はるかに離れた地で誰をいとおしく思っているのか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 長安にいる父親を思うことができないほど幼い子どもたち。
- イ 長安にいる父親を心配している子どもたち。
- ウ 鄭州で子どもたちを守り育てる妻。
- エ 鄭州で暮らす子どもたちと妻。

② 作者は、どんなときが来たら「泣くことがなくなる」と思っているのか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 戦乱が治まり、妻と二人で月を仰ぐとき。
- イ 子どもたちが成長したとき。
- ウ 流す涙も枯れ果てたとき。
- エ 妻が子どもたちに再会できたとき。
- オ 子どもたちと月を眺められたとき。

7

次の生徒たちの会話を読んで、生徒Aが指摘した「空間の広がり」という観点で分類した四つの詩の組み合わせとして適切なものをあとの中から選び、記号で答えなさい。

新傾向

生徒A：「それぞれの詩は、作者がどのような状況で、どのような心情を詠んでいるかが大きく異なっているね。杜甫は戦乱の都・長安で不自由な身、白居易は都を離れてのんびりとした暮らしと、置かれた状況も心境も対照的だ。」

生徒B：「確かに。二人は『家族と離れている』という点では同じだけど、そこでの心のあり方が全く異なっているんだね。」

生徒A：「それから、詩の中で描かれている空間の広がりにも違いがあるみたい。身近な空間に焦点を当てているものと、広大な景色を詠んでいるものがあるよ。」

生徒B：「本当だ。詩人がどこに視点を置いているかというのは、詩の世界観を決定する重要な要素だね。四つの詩を、身近な空間の詩(①)と広大な空間の詩(②)に分類してみよう。」

- ア ①：「静夜思」、「江南春」 ②：「月夜」、「香炉峰下、…」
- イ ①：「静夜思」、「月夜」 ②：「江南春」、「香炉峰下、…」
- ウ ①：「静夜思」、「香炉峰下、…」 ②：「江南春」、「月夜」
- エ ①：「静夜思」、「月夜」、「香炉峰下、…」 ②：「江南春」

6 「香炉峰下、…」(166)について、次の問いに答えなさい。

① この漢詩全体で、作者はどのような地を「故郷」と考えているか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が生まれ育ち、いつも心がそこに帰っていくような地。
- イ 人からの評価を気にせず、適職で本来の能力を発揮できる地。
- ウ 立身出世にとらわれることなく、安らかに生活を送れる地。
- エ 年老いてから住むにふさわしく、何でも楽に手に入る地。

② 作者白居易の現在の心境はどのようなものか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 美しい自然の中でも仕事はできるが、やはり長安が懐かしい。
- イ 美しい自然の中に身を置いているが年老いていくのはもの悲しい。
- ウ 美しい自然の中で気ままに過ごせるので心も体も安らかだ。
- エ 美しい自然の中に身を置いているが厳しい寒さには耐えられない。
- オ 美しい自然に慰められたので、都での華やかな生活をあきらめよう。

漢詩の形式を確認しよう

知識・技能

1 漢詩の形式について説明した次の文の空欄にあてはまる語句をあとから選び、書きなさい。

- ・ 絶句は、一つの詩が  ① つの句で、律詩は、一つの詩が  ② つの句でできている。
- ・ 絶句の第一句を  ③ 句、第二句を  ④ 句、第三句を  ⑤ 句、第四句を  ⑥ 句という。
- ・ 一つの句が五音(五文字)の詩を  ⑦ 言詩、一つの句が七音(七文字)の詩を  ⑧ 言詩という。
- ・ 原則として、 ⑨ 言詩の偶数句末と、 ⑩ 言詩の第一句と偶数句末で  ⑪ する。
- ・ 文法上の構造が同じで、意味に関連がある句を  ⑫ という。

四	五	六	七	八	九
起	結	承	对句	押韻	倒置



5 「旦那さん、お願いします。どうがなんぼでもいいはんで買ってくれない。」(224下・2)とあるが、小十郎はなぜこのように言ったのか。次の文の空欄にあてはまる語句を、本文中から抜き出しなさい。

小十郎の家は、  
 ばかりが七人おり、  
 や味噌、布を  
 買うのに金が必要だから。

6 「けれどもどうして小十郎は、……他の人へどしどし売れないか。」(225上・8)について、語り手はどのように考えているか。次の文の空欄にあてはまる語句を、本文中から抜き出しなさい。

①  
 の道理で、熊は小十郎にやられ、小十郎は旦那にやられるのに、旦那は  
 ②  
 から熊にやられないというのは、道理に反して、  
 てしゃくにさわる。

8 「おお小十郎おまえを殺すつもりはなかった。」(229上・1)、「もう俺は死んだと小十郎は思った。」(229上・2)というやりとりや230ページの大きな黒いものの行動などから読み取れる熊と小十郎の関係をまとめた。次の文の空欄にあてはまる語句を、あとの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。 **新傾向**

・小十郎にとって熊は「①」「人間の都合で命を奪う存在」である一方で、「②」である。  
 ・物語のクライマックスで、小十郎自身が熊に襲われて命を落とすのは、人間と熊の関係が「③」であることを示している。  
 ・熊は小十郎を生かすと同時に、最後にはその命を奪う。ここに「④」が示されている。

ア 脅威となる敵      イ 逆転する瞬間  
 ウ 畏敬すべき存在      エ 対等な競争  
 オ 命の循環      カ 獲物

①       ②   
 ③       ④

9 「熊ども、許せよ。」(229上・4)とあるが、このとき小十郎の気持ちとして適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 今まで猟師としてたくさん熊を殺してきたのも、熊が小十郎に殺されたのも因果だからしかたないという気持ち。  
 イ 山の主である小十郎が死ぬことで多くの人間が山にやってきて、熊がだんだん生息できなくなることや憂う気持ち。  
 ウ 熊をたくさん殺したので、熊たちが自分を恨んでいることは知

7 「大きな熊」(226上・3)について、次の問いに答えなさい。  
 ① 「小十郎は変な気がして」(226下・7)とあるが、なぜか。次の文の空欄にあてはまる語句を、本文中から抜き出しなさい。

熊が、  
 経てば小十郎の  
 から、今は  
 殺すのを少し待ってくれと願ったから。

② 「少し心配するように」(227上・4)とあるが、なぜか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 苦勞せずに獲物の熊を捕れるか、気にしているから。  
 イ 仲間の熊を連れて、仕返しにくるにちがいないから。  
 ウ 本当に來たら、熊との関係が以前と変わってしまうから。  
 エ その熊は既に、寿命で死んでいるかもしれないから。

③ 「小十郎は思わず拝むようにした。」(227上・8)とあるが、小十郎はなぜ「大きな熊」を拝んだのか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 熊の命を奪ってしまったことを後悔したから。  
 イ 熊の願いを叶えてあげなかったことを謝罪したかったから。  
 ウ 約束通り小十郎のために死んだ熊に畏敬の念を抱いたから。  
 エ 熊が小十郎を恨んで化けて出てくるのが怖かったから。

10 「山の上の平ら」(230上・1)では、何が行われているか。次の文の空欄にあてはまる語句を、本文中から抜き出しなさい。

なめとこ山の熊たちが、死んだ小十郎に  
 ①  
 ように、  
 小十郎の死骸を囲んで、雪に  
 ②  
 ている。

11 死んだ小十郎の表情が「何か笑っているように見えたと」(230下・1)のはなぜだと考えられるか。適切でないものを次の中から選び、記号で答えなさい。 **難**

ア 生活のためとはいえ熊を殺し続けてきたのに、熊たちが自分の死を悲しんでくれるから。  
 イ これまで殺し続けてきた熊に殺されたことで、これまでの罪を熊が許してくれたと思ったから。  
 ウ なめとこ山で死ぬことは、熊を撃つことで生活してきた猟師の小十郎にとって本望であるから。  
 エ 熊たちが自分のために祈り続けてくれることで、生き返ることができると確信したから。